

8月29日（土）愛教研八幡浜支部主催による「市長と教育を語る会」が開催されました。教職員46名が参加し、大城一郎市長様から「八幡浜市の市政について・教育に求めるもの」を演題とした講演を拝聴しました。

1 開会あいさつ 愛教研八幡浜支部長 土居 洋

先日の愛教研を語る会には、200名以上の大勢の方に参加していただきました。八幡浜支部の組織局の活動を見直すよい機会となり、誠にありがたく思います。

今回、市長と教育を語る会を計画したところ、たくさんの会員の方が参加していただきました。

大城市長様には、八幡浜市の教職員のためにお忙しい中、時間を割き、この会の参加を快くお引き受けいただいたことを、誠にありがたく感謝申し上げます。

この「市長と語る会」は、今年度初めての会です。大城市長様は、市P連会長のご経験もあり、市の教育の現状や課題については、だれよりもよくご存じであります。毎日、八幡浜市の活性化のために、未来を担う人材の育成にご尽力をいただいているところであります。本日は、教育や政治について有意義な話が聞けるものと期待しております。

ご参加の先生方には、それぞれの学校現場で思っていることを出していただき、行政と教育現場一体となった教育体制の構築をしていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。



2 講演 「八幡浜市政について・教育に求めるもの」

八幡浜市長 大城一郎

本日は、市長と教育を語る会に呼んでいただき、ありがとうございます。市長としてやっていきたいこと、そして、教育に求めるものについて話したいと思います。

まず、市政について、私は、三つの柱で臨んでいく決意があります。最初は、「安全・安心なまちづくり」2番目が「行財政改革の推進」そして3番目が「産業振興の取組」であります。

1番目の「安心・安全なまちづくり」。これは、市立八幡浜総合病院を含めたこの地域の医療体制の充実・医者確保・看護師確保。そして、24時間安心して暮らせる町。これが市民のみなさんの1番の願いだと思います。公約にも挙げた「直ちに3名の医師確保」については、私も一人二人心当たりがあり、一所懸命働きかけていましたが、途中で若干計画が狂って6月議会では、たくさんの議員の方から厳しいお言葉をいただきました。私も一生懸命やっていったわけですが、少しばかり予定が狂ったことをみなさんにお詫びを申し上げます。しかし、私もそれを念頭にずっと考えていたところ、今回、国から2次医療の充実ということで地域医療再生基金の選定を受けました。全国で3100億円の予算ですが、100億の投資をする地域が全国で10カ所。そして、30億の事業を投資していただける地域が、全国で70カ所。この地域に愛媛県で2カ所。1カ所が宇摩地域で、もう1カ所が八幡浜・大洲地域で



あります。八幡浜市立病院と保健所の指導、八幡浜市議会、県も一緒になって計画を作っています。今まではそれぞれがそれぞれの立場で働いていましたが、市議会議員・県議会議員・国会議員のみなさんと話ができるようになり、やっと点が線になってきました。その結果として八幡浜市医療の充実が、面として機能していくようになってきています。後少しで八幡浜市立病院の充実、そして、市立病院に先生を迎えられる、そんな嬉しい報告ができるかと思っておりますので、もう少しの間辛抱していただき、楽しみに待っていただけたらと思います。

2番目に掲げている「行財政改革の推進」。私も平成15年に八幡浜市議会議員として初めて市役所に入って行政というものを学びました。分からないことばかりでしたが、変に思うことはたくさんありました。ある時階段を上っていると、階段の電気が切れていました。事務局員に「電気が切れているので直しておくように。」と言いますと、「電話する。」と返答がありました。「どういうことだ。」と聞きますと、「ビルメンテナンスの委託があり、直してもらおう。」という返事でした。「それより、君がやった方が早いだろう。」と、私は怒りました。委託の方が安いと平気で言いますが、自分でやった方が安いと私は思います。市役所の中で、おかしいなと思うことを少しでも直していけたらと思っています。

財政についても今10億なのがしかの財政調整基金があります。その中で、私にできることと言いますと、自分の給料を10%カットすること。そして、退職金制度（市長4年間で約2千万）の廃止です。それを6月議会で提案しました。委員会は通してくれましたが、本会議では否決されました。そこで、改めて9月議会で私の本心として同じ条例を提案させてもらおうと思っています。それは、財政問題としてやはり自分の身を削ってでもやっていかなければならない、少しでも困った人のため、教育にお金を使いたいという思いからです。議員のみなさんにも理解を受けながらやっていきたいと思っています。

そして、最後に「産業振興の取組」。やはり八幡浜にはみかんと魚です。みかんを作っている若い人たちと話しましたが、八幡浜市にはみかんをジュースにするところがありません。他の市や町へ行ってみかんをしばって持って帰って売っています。また、魚の加工場も八幡浜市にはありません。せつかく日本一きれいな魚市場を作ると言っていますので、その横に魚を加工できる加工場を今検討中であります。若い人たちが望んでいることを、前向きに考えていくべきだと思っています。まず、この三つを踏まえ、これから八幡浜市政に臨んでいきたいと思っています。皆様方からのお力添えをいただきたいと思っています。

教育については、小学校時代からそれぞれの場面でいろいろな事を思っていたことで皆さんにヒントになるような事があればと思い、話してみたいと思います。私は昭和40年3月9日に生まれ、双岩小・中学校、八幡浜高校と過ごしました。まず教育に出会ったのは、小学校1年生です。たまたま僕と友達が力強い字を書くからと、市の展覧会に出すため、放課後残されて硬筆作品を書かされました。夜が更けて星が出て、本当に帰りたいな、寂しいなと思っていたとき、うちの母があまり遅いので差し入れにドーナツを持ってきてくれました。いろいろなドーナツが入っていて「頑張ってください。夜遅くまで大変だね」と言って。「つぶつぶがあるのはごまですよ」という言葉を未だに覚えています。そういうのが学校と地域・家庭が一緒になった教育だと思っています。自分を育ててくれるために、大人の人や母もそうやって応援してくれる。そんなことが今だんだんと失われていっているのではないだろうかと思っています。

それから、4年生の時には、大変厳しい先生に教えていただきました。覚えているのは、学校にあった四つの柱に書いてある文章を、毎朝読んでいたことです。1の柱が「ありがとう、ごめんなさいの言える素直な子になろう」3の柱が「人の身になって考えることのできる優しい子になろう」（2と4は覚えていません）この二つの柱だけ未だに覚えているというのは、すごい教育だと思っています。私もこの「ありがとう、ごめんなさいの言える素直な子になろう」「人の身になって考えることのできる優しい子になろう」を、ずっと何かの節目やみなさんの前で話す機会に言っています。私

にとっては、それが一つ一つの礎になっているんじゃないかなと思っています。

そして、やはり、「読み・書き・そろばん」これが一番大切だと思います。大人になって読んだ本は、すぐに忘れてしまいますが、昔読んだ本は本当に覚えています。私も忍耐力は、スポーツで鍛えながらつけていくものだと思っていましたが、読書でも忍耐力はつくんだなと思っています。パソコンにしてもしかりです。パソコンで文章を作るときには、一番大事な前頭前野を全然使ってないそうです。やはり鉛筆で文章をつくり、声を出して本を読むと、前頭前野が鍛えられると言われています。

中学生で一番覚えているのは、2年生の国語「一切れのパン」という授業です。なぜ覚えているかと言いますと、この授業で私は、50分授業の間に30分間ほど立たされていたからです。その当時、文化祭で劇の主人公を演じましたが、けっこう評判がよかったのです。だから、その時の国語の先生がその本を読んだ後、一番最後の言葉「ありがとう、ラビ」を言うよう指名されました。みんなの期待を一身に背負って、その言葉を言えず、ずうっと立っていました。先生は私が言えないので、みんなにも言わせました。全員終わりましたが、僕だけまだ立っていました。「もう座っていい」と言われ座ったとたんに、「じゃあ、もう1ぺん言ってみよう」と言って当てられました。僕もそこで立って「ありがとう、ラビ」と言いました。その授業を、今まで30年以上たっても覚えています。そういった授業というのは、素晴らしい授業ではないかなと思います。先生がうまく生徒全員を指導しながら、一人の生徒の背中をちょっと押しただいたんじゃないかなと思うのです。そんなことを教育現場に携わっているみなさんに、少し考えていただいて、子どもの背中を少しだけ押し上げてほしいのです。

それから、テニス部で一番覚えているのが、全国大会の予選です。その当日、朝から双岩校区は雨が降っていました。先生からの連絡もなく中止と思い、私もふらふらしていました。次の日に、そのテニスの顧問の先生が来られて出会ったときに「おお、わりい、わりい、昨日大会があつての、連絡いかんかって悪かったの。また、あらい」という言葉が返ってきました。でも、その時に問題にならなかったことがすごいなと思います。その時にその先生ともお互いに許し合える、という関係ができていたのかなと思います。今は、厳しくなりすぎています。決まり決まりで縛られすぎているんじゃないかと思います。普段の先生と生徒の人間関係が、ともすれば、馴れ合いの関係になろうとしているのかもしれない。しかし、許し合える、そんな人間関係が、人間的に成長できた過程にあったのではないかと思うのです。

高校の時は野球部に入り、3年間全然勉強していませんでした。その3年間勉強できなかったことを取り返すために、大学に行きたいと思い、大学では一生懸命勉強したつもりです。大学では、社会勉強もアルバイトもしました。そこでいろいろな人に出会い、いろいろな人を見ることができました。そういったことが人生のプラスになったのではないかと思います。

そして22歳の時に、八幡浜市に帰ってきました。帰ってきてやはり一番よかったなと思うのが、平成元年に八幡浜青年会議所というところに、入れていただいたことでもあります。私も17年間この八幡浜青年会議所にお世話になりました。その間に1回だけ、先生という役目をした経験があります。海を越えたカンボジアという所です。食べ物を家畜から守る塀を作る作業と子どもたちとの交流、地元の人との交流、この三つを念頭に四国の青年会議所から100名ぐらいのメンバーで行きました。そして、子どもたちに授業をしてみました。言葉が通じないので、画用紙を配って、似顔絵でコミュニケーションを図ろうと思いました。まずは、一番近くに座っていた子どもの顔を私が描きました。そして、子どもたちがそれぞれにぼくの顔を描きました。その時、子どもたちの目がきらきら輝いていて、ほんとに純粹だなと感じました。あの目は未だに覚えています。

滞在中、トゥールスレー博物館に行きました。ポルポト政権の時代にトゥールスレーという学校があり、そこで収容された人々が虐殺されました。そこには、カンボジアの地図があります。地図は、掘り起こした頭蓋骨で作られています。そのカンボジ

アの地図の頭蓋骨は、ほとんどがどこかいたんでいます。殺されるときに、銃殺をされず、殴られて殺されているのです。子どもたちも殺されています。一番ひどいなと思ったのは、足を持って、立ち木のこぶに頭をぶつけて殺したということです。でも、そんな軍事政権下を生きてきた子どもたちですが、すごくいい目をしていたなというのが印象にあります。

日本は、物が豊かになってきています。今回、スクールニューディール構想によりいろいろな機器が学校にも入ってくると思います。それを使って素晴らしい授業が行われると思います。でも、文化的水準は上がってきていますが、悲惨な事件も多く、お互いの人間関係は、昔からあまりよくなっていったようには思われません。できればその部分を少しでも上げていけるような教育を大事に、みなさんと共に考えながらやっていきたいと思っています。

今、三瓶町で一生懸命やっておられる「選択理論心理学」というのがあります。これは、人は変えられない、変えられるのは自分だけだということで、自分から変われば人も変わる、そんなことが根底にある心理学です。そのクオリティースクールの2校目をぜひ三瓶町にと思っています。皆さんも機会があれば、そういったところで見聞を深めるということもよいかと思うのでご紹介をさせていただきました。

最後に、明日はいよいよ衆議院議員選挙の投票日です。あるマニフェストにあった「子ども手当」については、どうかなと思います。生活が楽になる。しかし、本当にそれでいいのだろうか。子どもが5人いたら13万円。今までパートで働いてきて子どもを育ててきた。そのお金が簡単に入るとするのは、どうかなと思うのです。今、子どもを教育するのに親を教育しなければならないようなこともよく聞きます。地域の方で子どもを育てていこうという気運もあります。うちのばあちゃん、味噌を作るときに、僕の子どもたち3人と一緒に作っています。そんな機会を与えてくれます。餅つきもみんなです。餅をつくまでにどんな作業があったかということも教えてくれます。地域で子どもを育てる。それがこれからの日本のあるべき道だと思います。お金を渡すのが手取り早いかもしれませんが、もう少し、子どもたちを育てるため、そのために親がやるべきこと、そして、地域がやるべきこと、そんなことを全てできるような政策を練ってやっていくのが国の仕事だと思うのです。では、八幡浜市ではどうするか。そこで、八幡浜市は学校と家庭と地域と一緒に、この八幡浜市の次の時代を担う子どもたちの未来のために、地域が一体となって頑張っていってほしいと思います。そして、心の教育が一番かと思っています。いろいろな子どもを十分に分かってやって、その子どもの背中を少しでも押してやる。そんな教育を私は望んでいます。私の過去の経験を踏まえ、今日は話をさせていただきました。少々厚かましかったと思いますが、みなさんからいろいろな言葉をいただいて、この八幡浜市の教育をよくしていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。

### 3 閉会あいさつ 愛教研八幡浜副支部長 小西基次

大城市長様におかれましては、大変お忙しい中、お休みにもかかわりませず、愛教研八幡浜支部のために時間をとっていただきありがとうございました。

八幡浜市政について市長様の強い思いを聞かせていただきました。一市民として、是非、その思いをもって考えておられることをやり遂げたいと思います。お話を伺い、教育について考えさせられることもたくさんありました。

市長様は四万人の八幡浜市民の幸せのために、われわれ教職員は三千人の児童生徒の健やかな成長のために、同じ方向で全力を尽くす所存であります。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

会員の皆様、市長様からも教育に期待するというお話があまりした。八幡浜市の教員であることに誇りをもち、目の前の子ども達のために全力を尽くしていきましょう。

